

特色ある法曹教育で差をつける

地域貢献にも結びつく 法科大学院の法律家育成

金沢大学を含む全国各地の大学に「法科大学院」が誕生し、裁判官や検事、弁護士といった「法曹人口」を増やす動きが顕著になってきている。しかし、どの大学でも同じ教育が受けられるのなら、地方の法科大学院の存在意義が薄れてしまうはずだ。金沢大学法科大学院ならではの取り組みを探ってみた。

学生編集委員 牧内幸子



模擬裁判。事前の筋書きがないため会場にも緊張感が漂う

複雑化する法律問題 法曹人口の拡大が急務

社会が複雑になるにつれ、そこから起きるトラブルも多様化し、より高度な司法判断や法解釈が求められる機会が増えている。民事の法律相談に限ってみても、以前は相続や不動産所有権の問題が主だったが、近年ではインターネットや株取引に関するトラブルといったような幅広い相談が寄せられるようになった。法曹の質を維持しつつ法曹人口を拡大するためにも、多様化する法律問題に柔軟に対応できる法曹を育てることが急務となっている。

平成16年4月、全国の大学に「法科大学院」が設立された。弁護士が少ない能登や富山東部を抱える北陸では、特に法科大学院への期待が高い。北陸3県の弁護士会

の支援も受ける金沢大学法科大学院は、「地域に根ざした法曹教育」を基本理念とし、質の高い法曹を世に送り出そうとしている。なかでも、基本理念を実践するための重要な事業に位置づけられているのが、「法情報センター北陸」だ。

教育と地域貢献の核 「法情報センター北陸」

文部科学省から特色ある優れたプロジェクトとして認定されている「法情報センター北陸」は、法科大学院の主要事業の一つ。学生に対する法曹教育だけにとどまらず、「市民への情報提供」という役割も担っている。

市民向けには、模擬裁判の実施や高齢者の財産を守るための成年後見制度、国民に利用しやすい分かりやすい民事裁判や人事裁判の講座などを開催しているほか、「金



無料で利用できる法情報センター北陸・金沢サテライト

このように地域へ情報を発信すれば、市民からの意見や反応が得られ、それらを法科大学院の教育にフィードバックすることもできる。つまり「地域貢献」と「教育」が一体となることで、「地域に根ざした法曹教育」が可能となり、法科大学院の形成を支援しているのだ。

1月の休日の午後、金沢サテライトに足を運んでみた。書架には関連書籍が備えられ、自由に閲覧できるようにになっている。この日も行政書士などの資格を目指す人や、法律科目を受講している放送



パソコンで判例や法律雑誌などの情報を検索できる



法律関係の参考図書も豊富に揃う



より実践的な教育で 一般の人々にも恩恵

大学の学生がパソコンに向かっていた。

パソコン検索を利用する際は、学生が分かりやすく丁寧に説明してくれる。法情報の検索を通じて学生と地域の人々が直接ふれあう光景に、「地域貢献のあるべき姿」を見た気がした。

このように、法情報センター北陸は地域貢献を意識した事業ではあるが、根本の「法曹教育の充実」を忘れてはならない。次に、教育プログラムとして実施している「模擬裁判」と「リーガルクリニック」をそれぞれのぞいてみた。

昨年9月上旬。サテライト・プラザでは本番の裁判さながらの白熱したやり取りが行われた。金沢大学法科大学院の実践的な授業の一つ、「模擬裁判」だ。

学生が裁判官、検察官、弁護士、被告人、そして裁判員らに扮し、現役の裁判官や弁護士と一緒に事件を裁く。模擬とはいえ、学生に事前に与えられるのは事件の概要だけで、筋書きはない。学生たち

にとっては、実際の裁判に近い環境で実務を学べるのだ。

この模擬裁判は、一般の人に裁判や「裁判員制度」を身近に感じてもらうことも目的としている。裁判員制度とは、国民から無作為に選ばれた裁判員が、殺人、傷害致死などの重大事件を裁判官と一緒に審理する制度で、平成21年5月までに導入される。国民の司法参加が大きく進むと期待される一方で、まだ十分な理解がされていないという問題も抱えている。模擬裁判は、そんな裁判員制度に対して市民が抱える疑問や不安を解消し、より深い理解を促す試みでもあるのだ。実際に参加した市民に聞くと、「裁判の雰囲気を実感できた」「裁判員制度についての理解が深まった」との声が上がった。

リーガルクリニックは弁護士の指導のもと、学生が依頼者に相対し、相談業務を行う実務教育だ。弁護士として法科大学院の教壇に立つ野坂佳生教授は、「法曹の資質」といえるのは、座学もさることながら実務で養われる点が大きい」と話す。弁護士といえども、依頼人とのコミュニケーションのとり方や信頼関係の構築は難しい。「依頼人との連絡や確認が不十分だと信頼されない」と野坂教授は続ける。リーガルクリニックは、学生がコミュニケーション方法を習得する機会にもなっている。

サテライト・プラザでは毎月2回リーガルクリニックが開かれ、各回4件の相談を受け付けている。

持ち込まれる相談内容は、離婚や遺産分割、そして不動産に関する日常的な問題から株の所有権トラブルまで多岐にわたり、学生の助言内容については、地元弁護士会の指導弁護士が責任を持って対応している。無料相談とはいえ本格的で、守秘義務も遵守されるので、安心して相談することができる。

地域事情に精通した 法律家を生み出す

今年度の相談希望件数が多かったことから、野坂教授は来年度の回数や件数を増やすことも検討している。

模擬裁判やリーガルクリニックなど、法情報センター北陸を核とした金沢大学法科大学院の取り組みを取材すると、教育の充実と並行して地域に根づこうとする姿が見て取れる。

法曹界を目指すなら、司法試験に合格することが前提となる。「法律は全国どこでも同じで司法試験も一緒。だから、どこで法曹教育

地域の人々に法情報を提供し、その意見を教育に反映させる法科大学院。そこから生まれる「法の専門家」は、同時に「地域の専門家」にもなっているだろう。法律相談を持ちかける側の立場で考えると、「地域の事情に精通した法律家」ほど心強い味方はいない。

学びと情報の発信拠点

金沢大学サテライト・プラザ



- ◆大学インフォメーションセンター
- ◆法律関係図書・判例等の閲覧、法情報検索コーナー（法情報センター北陸・金沢サテライト）
- ◆公開講座やミニ講演など各種講座の開催

〒920-0913 金沢市西町3番丁16番地
TEL:076-232-5343 FAX:076-232-5383
 E-mail:satellite@spacelan.ne.jp
http://www.ad.kanazawa-u.ac.jp/ad_koho/satellite/